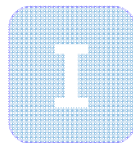


目次



清水港の概要



計画変更の背景



計画変更の内容（日の出地区）



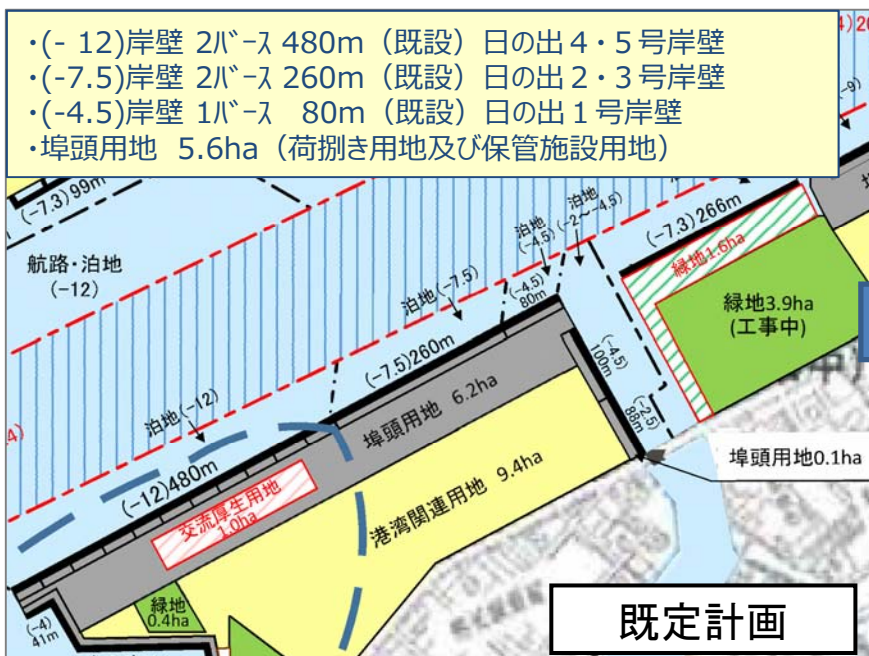
事前意見照会に対する対応

Ⅲ 計画変更の内容①

■ 公共埠頭計画及び旅客船埠頭計画

清水港港湾計画書 (P2) ・資料 (P3～4)

- 日の出新2号岸壁の岸壁延長は、連携する船社が優先的に利用することから、現在所有する最大の15万GT級クルーズ船「ゲンティン・ドリーム」を対象とし、水深は、世界最大級(水深)の「クイーン・メリー2」(15万GT級)を対象とする。
- 日の出新1号岸壁は、日の出新2号岸壁の旅客船専用バース化により、これまで取扱っていた外貿パルプを日の出新1号岸壁へシフトするため、一般貨物船と旅客船の双方に対応した「貨客併用埠頭」として利用する。岸壁延長は、「マジェスティック・プリンセス」(15万GT級)を対象とし、水深は、「3万DWT級一般貨物船」を対象とする。
- 世界最大級(延長)の22万GT級クルーズ船であるオアシス級は、日の出新1・2号岸壁全体を連続バースとして活用し対応する。



Ⅲ 計画変更の内容①

■ 公共埠頭計画及び旅客船埠頭計画

清水港港湾計画資料 (P3)

【対象船型の設定】

- 連携するクルーズ船社が所有するクルーズ船や世界最大級クルーズ船など、現行クルーズ船及び外貿パルプ船の入港にも対応するため、対象船型を以下のとおり設定。

対象クルーズ船	船舶諸元			利用岸壁 (岸壁規格設定根拠)
	船長	型幅	満載喫水	
①15万GT級旅客船	330.0m	38.4m	8.5m	日の出新1号岸壁 (延長)
②3万DWT級一般貨物船	182.0m	28.3m	10.5m	日の出新1号岸壁 (水深)
③15万GT級旅客船	335.0m	40.0m	8.8m	日の出新2号岸壁 (延長)
④15万GT級旅客船	345.0m	41.0m	10.3m	日の出新2号岸壁 (水深)
⑤22万GT級旅客船	361.0m	47.0m	9.3m	日の出新1・2号岸壁連続使用

①15万GT級旅客船
【マジェスティック・プリンセス】



③15万GT級旅客船
【ゲンティン・ドリーム】



④15万GT級旅客船
【クイーン・メリー2】



⑤22万GT級旅客船
【オアシス・オブ・ザ・シーズ】



Ⅲ 計画変更の内容①

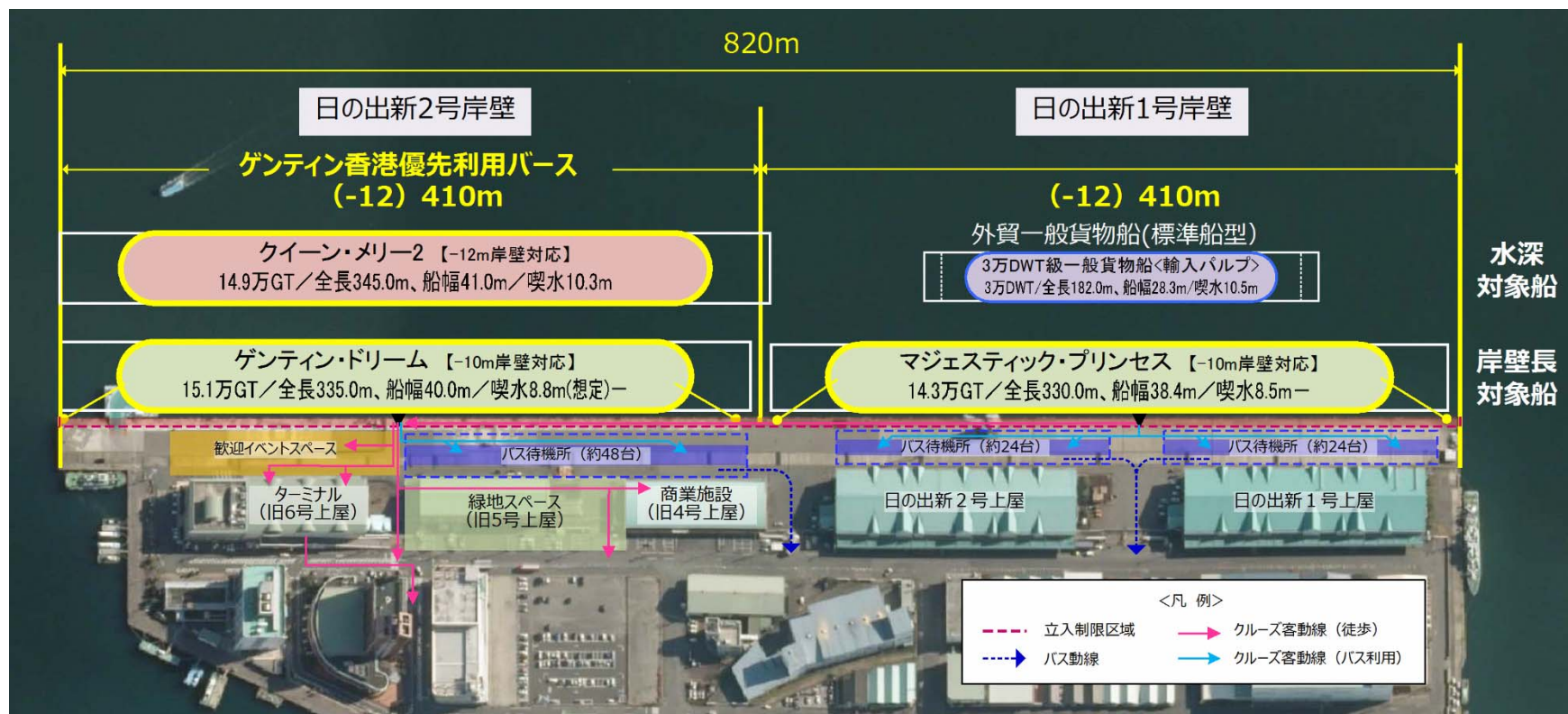
■ 公共埠頭計画及び旅客船埠頭計画

清水港港湾計画資料 (P3)

【バス利用想定①】

岸壁の対象船舶

- 日の出新1号岸壁 延長:ゲンティン・ドリーム
(貨客併用岸壁) 水深:クイーン・メリー2
- 日の出新2号岸壁 延長:マジェスティック・プリンセス
(旅客船専用岸壁) 水深:3万DWT一般貨物船



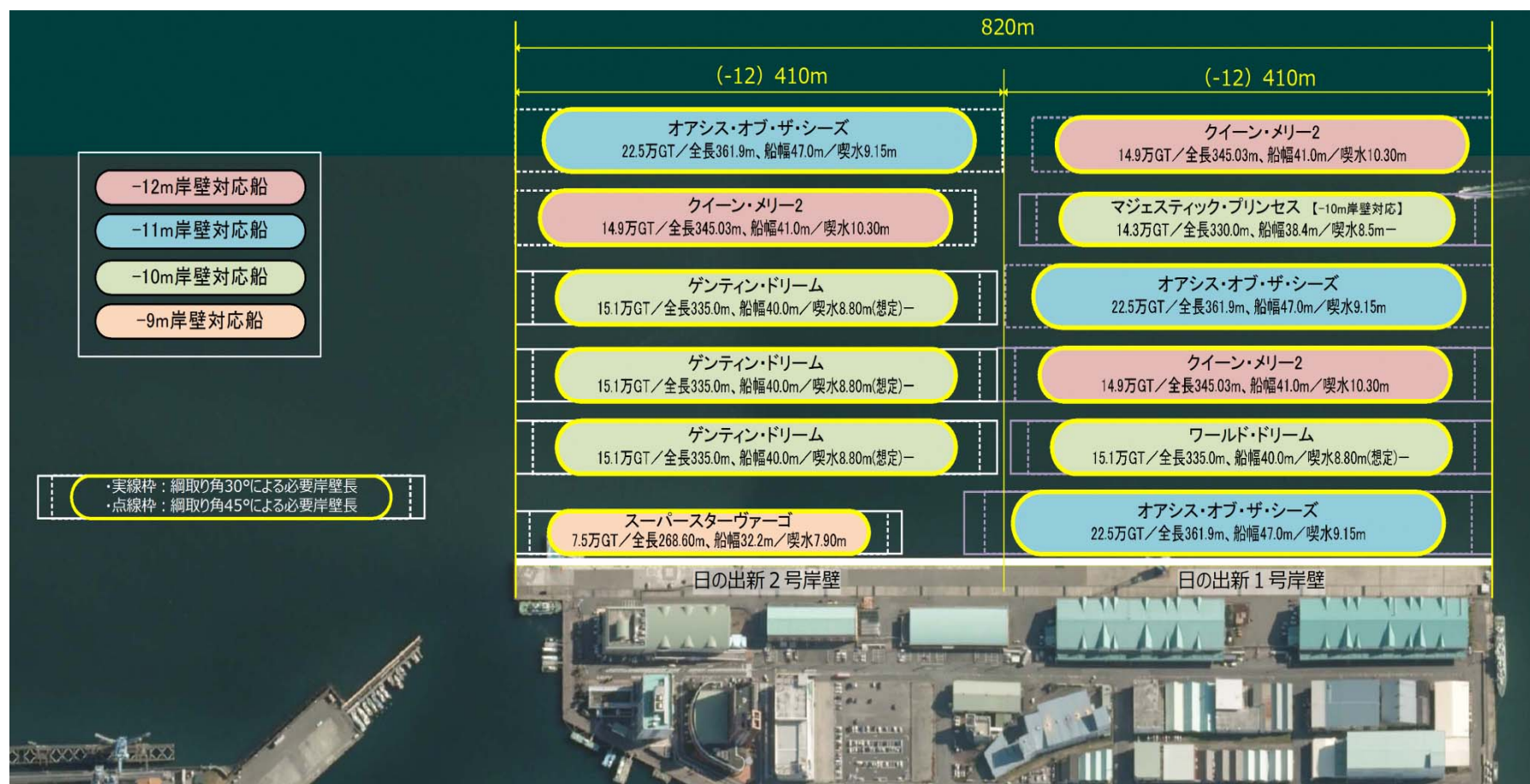
Ⅲ 計画変更の内容①

■ 公共埠頭計画及び旅客船埠頭計画

清水港港湾計画資料 (P3)

【バース利用想定②】

➤ 外航旅客船の2隻同時接岸における利用想定は、以下のとおり。



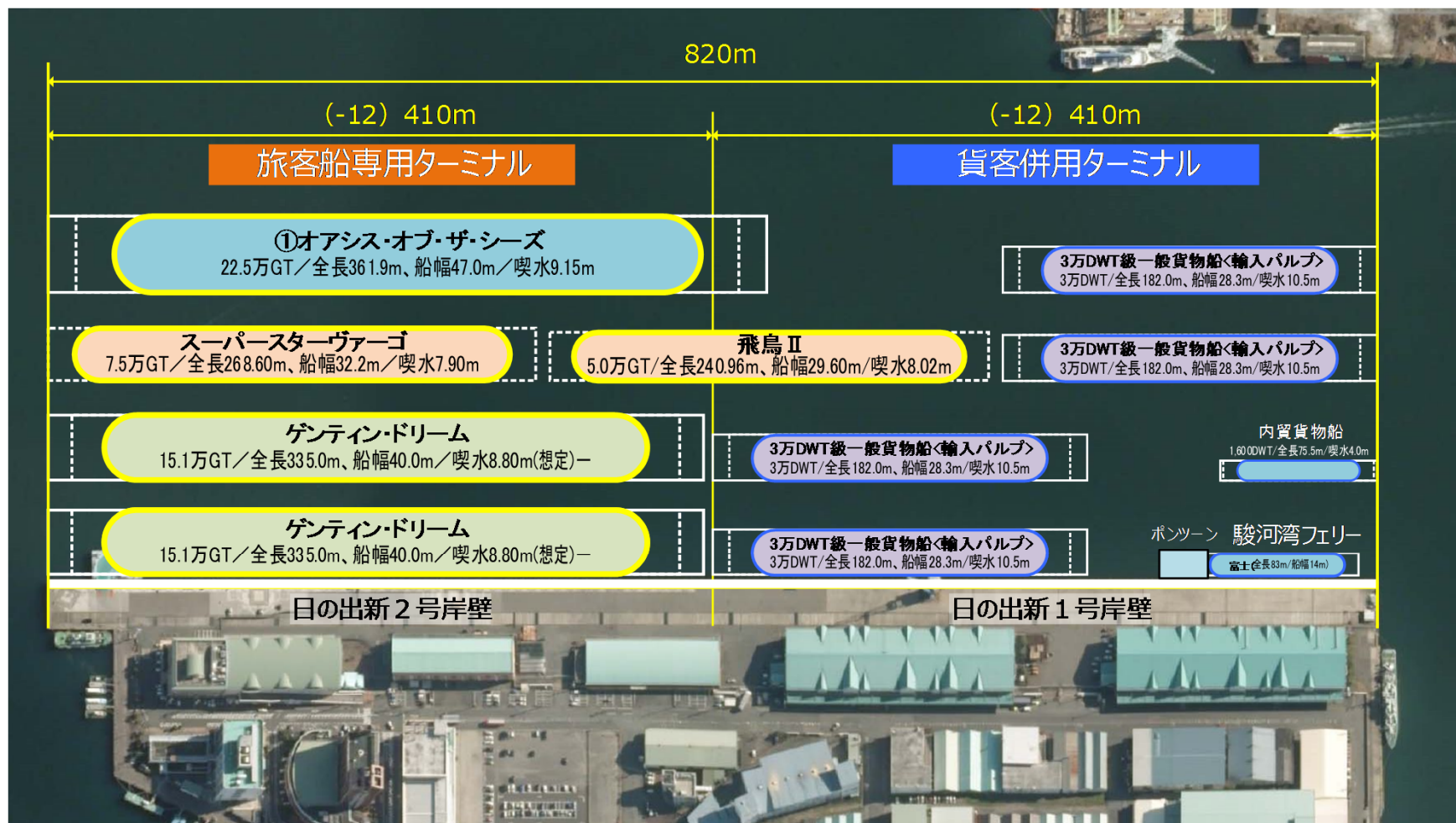
Ⅲ 計画変更の内容①

■ 公共埠頭計画及び旅客船埠頭計画

清水港港湾計画資料 (P3)

【バース利用想定③】

➤ 外航旅客船と外貿一般貨物船など、多様な利用想定は、以下のとおり。



Ⅲ 計画変更の内容①

■ 公共埠頭計画及び旅客船埠頭計画

【日の出地区利用想定】

➤ 人流と物流の動線について利用想定は、以下のとおり。

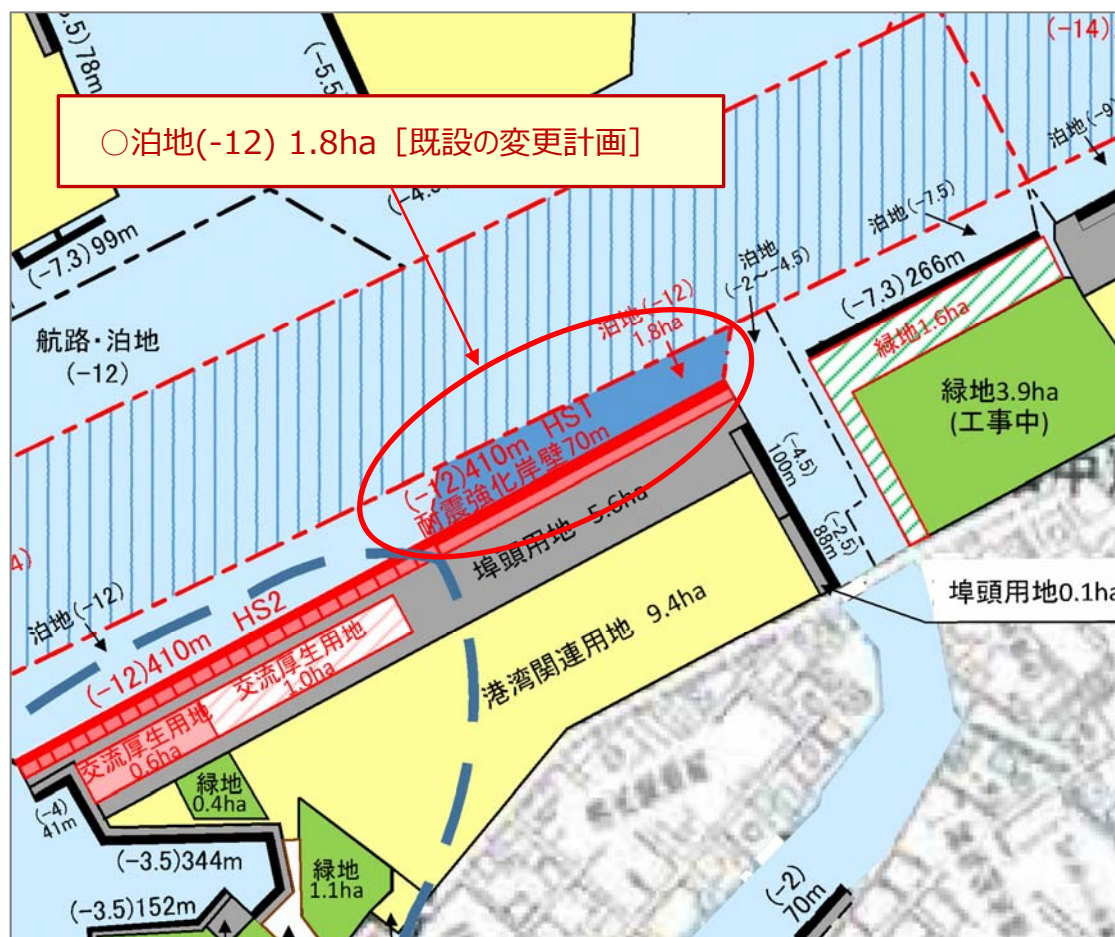


Ⅲ 計画変更の内容②

■ 水域施設計画

清水港港湾計画書 (P3) ・資料 (P5)

- 日の出新1号岸壁における水深12mの増深計画に伴い、日の出岸壁前面泊地を水深12mへ変更する。



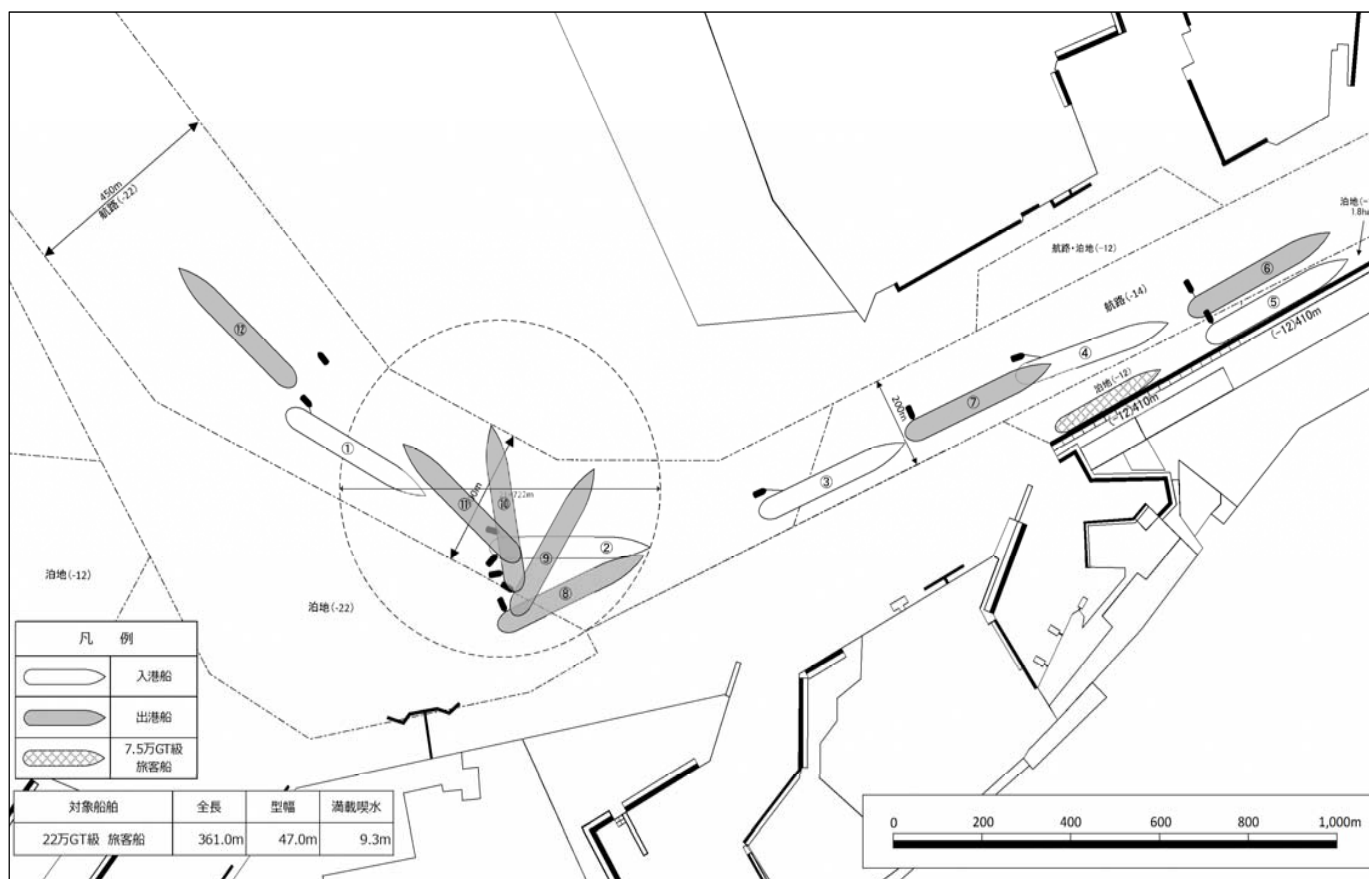
Ⅲ 計画変更の内容②

■ 水域施設計画

清水港港湾計画資料 (P6~7)

【操船例図】

- 最大船長の22万GT級クルーズ船「オアシス級」が、日の出新1・2号岸壁全体を連続バースとして利用する際の操船例図は、以下のとおり。
(日の出新2号岸壁に連携船社の7.5万GT級クルーズ船が接岸している場合の利用想定)



※計画実現のためには、別途、船舶航行安全対策委員会の検討を要する。

Ⅲ 計画変更の内容④

■ 港湾の環境の保全

清水港港湾計画資料 (P12)

対象	計画変更に伴う影響と評価 (環境影響要因：入出港船舶隻数、港湾利用車両台数の変化、岸壁・泊地の整備)
大気質	・ 負荷が著しく増大するものではないことから、影響は軽微であると考えられる。
騒音・振動	・ 港湾からの発生集中交通量は著しく増大するものではないことから、騒音・振動による影響は軽微であると考えられる。
潮流	・ 泊地浚渫箇所は港内側に位置しており、潮流の大きな変化も想定されないことから、潮流に与える影響は軽微であると考えられる。
水質・底質	・ 潮流の大きな変化も想定されないことから、水質・底質に与える影響は軽微であると考えられる。
生態系	・ 大気質、水質・底質への影響は軽微であると予想されることから、生態系への影響は軽微であると考えられる。
総合評価	・ 環境に及ぼす影響は軽微なものであると考えられる。 ・ なお、今後とも環境保全について十分配慮するとともに、本計画の実施にあたっては、工法・工期等について検討し、十分な監視体制のもとに、環境に与える影響を少なくするよう慎重に行うものとする。